

このツールは公益財団法人神奈川県スキー連盟の“命”であります。

それはスノースポーツライフを楽しむ会員、県民が「手引書」として「ガイダンス」として長年役立て育てて頂いたものです。

「ツール」と言う素敵な名前を命名して作り変えたのは前本田理事でした。

歴史が刻み込まれ、選手の魂が注がれ、会員、県民の熱意あふれるものに変身してまいりました。熱血溢れる協会・クラブの事務担当（登録担当）の方々の幅広いご活用と選手、指導員はこのツールでシーズンを構成します。その案内人としての役割を切にお願い申し上げます。



## ジュニア世代強化の緊急性

～ リオ五輪に学ぼう ～  
会長 片 忠夫

ここのところ、日本のスキーライフは環境面、スキー場環境等々大きく様変わりしています。施設他生活環境面でももっと激しく変化し、進化するでしょう。

昨シーズン「アルペン・ワールドカップ苗場大会」が私たちに残してくれたレガシー（遺産）をいち早く実践する事ではないでしょうか。

その大会のGS覇者アレクシー・バントュロー（フランス）は「アタック」と「コントロール」を使い分ける高度なテクニックと勝因を表現し、SL優勝のフェリックス・ノイロイター（ドイツ）は「悪条件をストレスにしない」戦略が功を奏したと語っています。いずれも豊かな経験から生まれたものです。

“豊富な経験”の源泉はジュニア層の強化です。ジュニア時代からいろいろな経験をさせる事が重要と考えます。加盟団体の協力を得てジュニア層を育成して県体協との間にある「一貫指導マニュアル」をベースに県連レベルで展開することが最重要課題と考えます。

その原点に立ち返り、更にそれを押し進める原動力は公益財団法人神奈川県スキー連盟としての「マーケティング」ではないでしょうか。マーケティングの詳細は別の機会としますが一例としてスリーボンド社のスポーツ支援思想を紹介させていただきます。

「世界の“ものづくり”の最先端では常に、最高度の技術開発が求められます。このことこそが、スリーボンドがスポーツ支援に力を入れる理由です。

モータースポーツ、ヨット、ゴルフ、スキー、トライアスロン。私たちが支援しているスポーツはいずれも、マシンやアイテムなどの技術開発が勝敗を大きく左右します。単純に身体能力を競うだけでなく、道具を開発する能力と使いこなす能力、その高次元での両立が求められるスポーツこそ、スリーボンドの本業の活動と一致するからです」

公益財団法人神奈川県スキー連盟が「マーケティング」との観点でもう一度整理して強化して協賛企業との連携強化を行い、目的を達成していかなければなりません。

情熱ある有志の皆さん羽ばたこうではありませんか。

以上